
新漢語水平考試 5 級問題を利用した 中国語自動学習システムの開発

加藤 宏紀／彭 国躍／松村 文芳

1. 本研究は、中国語自動学習室内の閉じられたネットワーク上で、新HSK5級を利用した中国語自動学習態勢を構築することを目的としている。
2. 本研究では、まず既存のネットワーク上での自動学習を可能にするため、新HSK問題のデータ化を進めた。
3. データ化に当たっては、モデル構築の観点から、新HSK5級の問題集を参考に、「聴力」、「閲読」、「作文」の3分野のそれぞれ第一部分に焦点をあてた。
4. 本システムでは、問題を解いて、可否を確認するという単純な電子版問題集ではなく、各設問のポイント解説を
5. ポイント解説の整理を通して、各分野の学習ポイントは次のようにまとめられる。
 - (1) 聴力：1対の対話から、質問、紹介、もてなし、交際・交流など日常的な口頭語のコミュニケーション場面における知識・能力をテストする。具体的には、心情や態度などの語気、人間関係、場所、話題、身分および慣用語の意味などを対話から聴き取る設問が用意されている。
 - (2) 閲読：実詞と虚詞それぞれについて、語彙・表現の識別能力を判定する。それぞれの
 - (2-1) 実詞の識別能力
 - (a) 組み合わせ対象の違い；(b) 語の機能の違い；(c) 使用範囲の違い
 - (2-2) 虚詞の識別能力
 - (a) 基本的な虚詞の用法の熟知、把握；(b) 用法の類似した虚詞の違いの熟知、把握；(c) 複文における接続表現の正確な運用
 - (3) 作文：基本文型の理解、付加的修飾的成分の種類と語順の理解、複文への適応能力について判定する。
 - (3-1) 基本文型の理解
 - (a) 名詞述語文；(b) 形容詞述語文；(c) 主述述語文；(d) 連動文；(e) 兼語文；(f) 比較文；(g) 処置文；(h) 受身文
 - (3-2) 付加的修飾的成分の種類と語順の理解
 - (a) 連体修飾語；(b) 連用修飾語；(c) 動量補語；(d) 時量補語；(e) 方向補語；(f) 状態

補語; (g)結果補語;
(3-3) 複文における接続表現の正確な運用
(a)前後の節の主語の同一性と接続詞の位置; (b)後節の接続詞の位置; (c)共起す

る副詞の位置
6. 本システムをモデルとして構築したことにより、より内容の濃い解説の追加や他の級のバージョンへの転用といった波及効果を期待できる。

